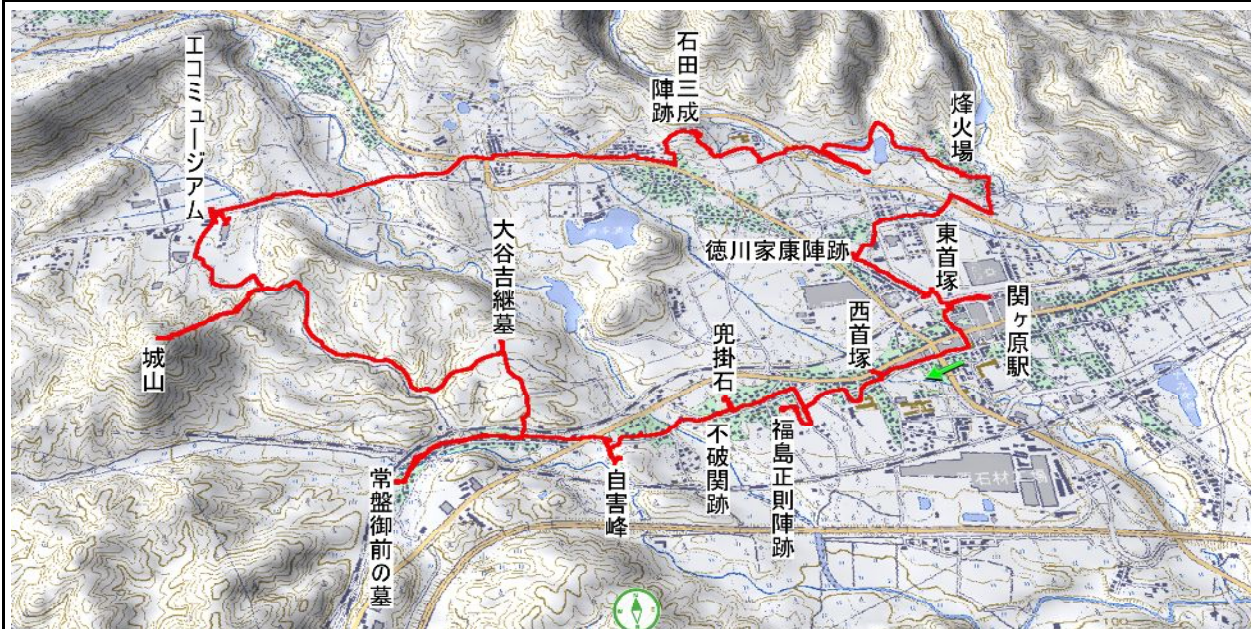


健康登山75: 自然歩道42(関ヶ原古戦場跡)

コース	関ヶ原駅 1.6km/27	福島正則陣跡 2.2km/41	常盤御前の墓 1.0km/24	大谷吉継墓 1.9km/55	城山 1.2km/28	エコミュージアム 2.4km/41	石田三成陣跡 1.7km/32	烽火場 1.1km/20	徳川家康陣跡 0.7km/10	関ヶ原駅
水平距離	13.8km									
水平換算距離										
累計高低差	登り393m、下り393m									
標準歩行時間	4:38									
実績歩行時間	5:03									
		断面図		0 2 4 6 8 10 12						
		縦軸: 高度m		1000 800 600 400 200 0						
		横軸: 距離km								



山行報告

山行日 2012・05・17(木) 天候 曇り 参加者 5名

京都駅7:54 関ヶ原駅9:50 福島正則陣跡10:22 常盤御前の墓11:22~11:54 大谷吉継墓12:14 城山13:09 エコミュージアム13:29~35 石田三成陣跡14:19 烽火場15:20 徳川家康陣跡15:40 関ヶ原駅15:53~16:23 京都駅17:42

記録

東海自然歩道歩き最終回として関ヶ原古戦場跡を散策した。
 関ヶ原駅前にある観光案内所で史跡巡りの地図をいただき、時計回りで周回した。途中でコースから逸れて城山に登り、エコミュージアム関ヶ原と胡麻の郷に立ち寄り、笹尾山にある石田三成陣跡で史跡めぐりコースに復帰した。
 関ヶ原は1600年に起きた関ヶ原合戦で有名だが、672年の壬申の乱も関ヶ原が舞台だった。また旧中山道もあり、これらにまつわる史跡が数多く混在していて歴史好きには魅力がある。前回も立ち寄った西首塚を出発点とし、福島正則陣跡、壬申の乱遺跡の兜掛石、不破関跡、自害峰の三本杉、鶯の滝等を見て旧中山道にある常盤御前の墓へ行った。この広場には132.4mの水準点があり、ベンチやトイレもあるのでここで昼食をした。
 昼食後、若宮八幡神社まで戻り神社の裏山にある大谷吉継の陣跡と墓へ向った。神社の鳥居と本殿の間をJR東海道線が通っていて踏切を渡って参拝するのは珍しい。
 史跡巡りコースは大谷吉継の墓から東へ向い、宇喜多秀家、小西行長、島津義弘陣跡を通り石田三成陣跡へ向うのだが、私たちは墓から西へ向い307.5mの三角点がある城山に登った。山頂から伊吹山がよく見え、伊吹山を背景にして集合写真を撮った。
 その後、関ヶ原の自然を紹介しているエコミュージアム関ヶ原に立ち寄り、国道365号線沿いを東へ進み、笹尾山の石田三成陣跡に登った。眼下に史跡決戦地が見え、関ヶ原合戦の全貌が見渡せる。意外に戦場は狭かったのだと感じた。松尾山の小早川秀秋が戦況を左右するキーマンだったことが実感できた。
 決戦地から東へ進み、丸山烽火場を見て市街地にある歴史民俗資料館の近くにある徳川家康陣跡に着いた。最後に朱塗りの東首塚に立ち寄り、関ヶ原駅へ戻った。

自然歩道 (関ヶ原古戦場)



西首塚
10:07



福島正則陣跡
10:21



常盤御前の墓
11:22



大谷吉継陣跡
12:07



城山の登り
12:49



城山にて
背景は伊吹山
13:32



石田三成陣跡から
古戦場跡を望む
14:32



烽火場
15:08



徳川家康陣跡
15:38



東首塚
15:46

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：関ヶ原古戦場）

参考資料 ホームページ他より

関ヶ原宿：中山道 69 次の 58 番目の宿場。旅籠 33 軒、本陣 1 軒、脇本陣 1 軒があった。
美濃十六宿の中で最も賑わった宿場。現在国道 21 号が通り当時の面影はない。

東山道^{とうざんどう}：近江国から陸奥国に貫く幹線街道。五畿七道の一つ。江戸時代になると中山道などに整備された。

西首塚：関ヶ原合戦後、両軍戦死者数千の首級^{しるし}(遺体)を葬ったところ。
東首塚に対し胴塚と呼ばれ竹中重門が造った。

藤堂高虎/京極高知陣跡：関ヶ原中学の校庭。校門を入れて直ぐ右側。西軍「大谷吉継陣」に備えて陣を敷いた。
大谷隊は小早川軍の寝返りで壮烈な死闘の真ただ中、東軍の両本隊が突入、さらに寝返った脇坂隊も東軍に呼応、大谷隊は壊滅に追い込まれていった。

春日神社：ここから、南宮山^{なんぐうざん}(後述参照)の頂に上がる月が見えるため月見宮と言われる。
境内の大杉は、樹齢 800 年あまりで県天然記念物。関ヶ原合戦図屏風にも描かれています。「月見宮大杉」と名付けられています。
関ヶ原合戦の東軍先鋒となった福島正則隊(約 6000 人)はここに陣を敷き、南天満山の西軍の宇喜多隊と対陣していたところです。

不破関東城門跡：関所の東端と西端に城門が設けられ兵士が守固していました。
日暮れとともに閉門。国家的な大事が起こると、通行が停止された。
関の中央部を東西に東山道(中山道)が通っています。中山道の西から国道 21 号線に向かう三差路が東城門跡です。

戸佐々神社/不破関西正門跡：不破関を鎮護する神として祀られていた。
祭神は関比男明神。この神は現在井上神社に合祀され、現在は天照大神が祀られています。(小さな祠があります)
この辺りに西城門があったとされ、関所に使われた堅固な石組が今も残っています。

藤下若宮八幡宮^{とうげ}：藤古川の右岸。祭神は弘文天皇(大友皇子)が祀られています。
壬申の乱直後に建立されたとか。縁記では元応十一年(1320)に祭る。
左岸には天武天皇(大海人皇子)を祀る「井上神社」があります。
藤古川を挟み、地区住民は東西で崇拝する氏神が異なっています。

箭先^{やきき}地蔵、矢尻の池(井)：壬申の乱のとき大海人軍の兵士が水を求めて、小さな泉を矢尻で掘って大きくしたものと伝えています。国道工事で水脈は途切れた。地蔵は明治十一年坂を開削したとき出土した地蔵と、弘文天皇陵傍にあった地蔵を合祀されています。

弘文^{こうぶん}天皇御陵候補地、自害峰の三本杉：壬申の乱で敗れた弘文天皇は近江で自害された。天皇の首は、大海人皇子の本宮「不破の野上宮」に持ち帰り、大海人皇子の首実験の後に、この丘陵に葬ったと伝えられています。目印に植えられたと伝える杉は、幹回り6m、高さ21m、一か所から三本生えています。また弘文天皇はここで自害されたと伝えられ、御陵候補地でありました。

常盤^{とぎわごぜん}御前の墓：牛若丸の母。牛若丸が鞍馬山を抜けだし、東国へ走ったと聞き、跡を追ったがこの地で賊に襲われ殺害された。哀れに思った「山中の里人」がここに葬り塚を築いたと伝えられています。

鶯の滝：高さ4.5m。中世の「山中村」は東山道の宿場町として栄えていたそうです。近世(江戸期)では、立ち休み場として種々の店が軒を連ねていたそうです。今須峠を往来する旅人にとって旅を慰めてくれる憩いの滝で、水量も多く、冷気が立ち上がり、年中鶯の鳴く「平坦地の滝」として街道の名所の一つでありました。

黒血^{くろちがわ}川：壬申の乱のとき、大友軍の精鋭が、玉倉部^{たまくらべむら}邑を経て大海人軍の側面を衝き急襲、その時の激選で、両軍の兵士の血で、川底の岩石を黒く染めたことからその名がついた。元々は「山中川」と言っていた藤古川の支流。撃退した大海人軍は近江に進撃を開始します。

関の藤川(藤古川)：関所の傍を流れていることから「関の藤川」と呼ばれていた。「壬申の乱」の不破の道では、この川を挟んで開戦された。「関ヶ原合戦」では大谷吉継が右岸上流に布陣するなど、軍事上要害の地でした。

大谷吉継陣跡：標高180mの山地。親友の三成の懇願を受け死に装束でここ宮上に出陣。松尾山に面し、東山道を見下ろせるこの辺りは、古来山中城と言われる要害の地でした。九月三日に到着後、浮田隊などの陣造りも進め、十五日未明の三成等主力の着陣を待ったといいます。

大谷吉継^{おおたによしつぐ よしたか}(吉隆)墓：吉継は三成の拳兵に対し再三思いとどまるよう説得したが、三成の

決意は変えられず、旧友の決意に対し、死を共にしても戦うことを選び、死に装束でここに出陣した。小早川軍の寝返りで、壮烈な決戦の末「首を敵に渡すな」と云い自害した。墓は敵方の藤堂家が建てたものでした。

大阪城の秀吉の茶会で、ハンセン病を患っていた吉隆の膿が、茶碗の中に落ちたのを見た武将たちは、飲んだふりをして次々に回したが、石田三成は、それを飲んだことで、吉隆は感動し、三成と一層親密になったという。

吉隆の娘(実子/養女)は、真田幸村の妻の利世りよ。(利世の実父は吉隆の妹の夫)

ひらつかためひろ
平塚為弘の碑：大谷吉継の親友で地元垂井の武将。薙刀の名手。体の不自由な吉継の代わりに、指揮を執ったともいわれる。吉継は目が見えなくなっていたという。

玉の城山：標高 307.5m 四等三角点。南北朝時代に足利尊氏に追われた佐竹義春が築いた。土塁、堀切、竪掘りなど遺構があります。登山口から 600m で頂上。東屋があり北に伊吹山が迫る。

笹尾山：標高 190m。西軍石田三成陣跡。関ヶ原盆地を間近に見下せる。西軍の布陣は完璧であったが、小早川隊等の寝返りで完敗する。なお総大将は毛利輝元です。

関ヶ原決戦地：小早川秀秋他四将(脇坂、朽木、小川、赤座)の裏切りで、脇腹を突かれる形で、石田隊は崩れてしまいます。笹尾山の前あたりが一番の激戦地となりました。

岡山丸山烽火場のろし：東軍黒田長政と竹中重門の陣跡。
午前八時頃、此处から攻撃開始の狼煙が上がり、笹尾山からも西軍の狼煙が上がって合戦が開始されました。

関ヶ原町歴史民俗資料館：関ヶ原合戦大パノラマや武具の展示、壬申の乱の資料、310 円。

東首塚：もとは家康が首実検した首が葬られていたが、その後東西戦没者の供養のための塚へと変わりました。
合戦の直後、この辺りの領主である竹中氏が供養のために築いた塚です。

徳川家康最後の陣跡：合戦が終盤にさしかかると、家康は 2.3 km 東の桃配山から、この地に本営を移し采配をふるいました。背進の島津軍が目前まで迫りました。

開戦地：松平忠吉の後見人井伊直政は、一番槍の功を取らせようと「法度」である抜け駆けを試み、それを見た先陣福島正則は、抜け駆けをさせまいと西軍宇喜

多隊に一齐に発砲して戦いが始まりました。

天満山 : 西軍の陣所で、北天満山は小西行長陣跡、南天満山は宇喜多秀家陣跡。

与市宮 : 関原與市(本名藤原基清/平安時代の貴族/平家の武将/美濃国の侍)。

現在の関ヶ原の基盤を造り、関ヶ原に水を引いた開拓者です。

難工事のためこの地を通行するものは必ず 1 日使役に参加しないと通行できなかったといひます。与市を祭る「宮」は子孫の方が造り、手入れが行き届いていて、中山道関ヶ原東、GS裏にあります。

* 与市と牛若丸 : 正安 4 年(1174) 与市は代官でもあり平家でもあるので、京の都にも度々上がっていた。ある帰途の時、京都粟田口(蹴上)で、馬が撥ねた泥水が、^{たまたま} 偶々道端にいた奥州に向かう牛若丸の袴にかかってしまい、咎めた牛若丸と大喧嘩のすえ、与市は家来 8 人と共に切り殺された。遺体は関ヶ原に運ばれ、墓がつくられた。一般的にこの事が京都「蹴上」の地名となったようです。一説では粟田口刑場に向かう罪人の歩みが遅いので、役人が罪人を蹴り上げて歩かせたからともいわれる。

明治 15 年関ヶ原で、鉄道開通工事で大きな五輪塔が見つかり関原与市の墓(実証は無い/関ヶ原中野)とされています。

日ノ岡峠を境に山科側を「九体町」と言っていました。切り殺された 9 人の菩提を弔うため、後に義経が石仏 9 体を安置したのが地名とされます。

実は「日ノ岡(粟田口)刑場」の刑死者の供養のために作られたようです。

15000 人が処刑されたといひます。供養の石碑千人に一基、15 基以上あった。

御陵血洗町は「義経刀洗い水」「与市首洗い水」と称する池(今は無い)と義経腰掛石(薬大グラウンド南前/鏡山小学校東)があります。

石仏九体は蹴上の東海道街道筋に移され、内三体が残されていましたが、道路拡張工事などで整理され、一体は日向大神宮の参道に「義経大日如来」としてまつられています。

十九女池 : 関ヶ原村の若者の家に、夜になると、美しい娘が時々お椀を借りにきたりし、横笛を吹いて歩いたりして、若者たちの胸をときめかしていた。ある時若者が、大蛇の化身ときづくと、翌日から姿を見せなくなりました。

それからしばらくして若者の家の入口に『縁あって、遠くにまいます。

十九女』と書かれた短冊と横笛が置いてあった。

その後この池を十九女池と呼ぶようになった。

現在お椀は法忍寺に、横笛は「ほととぎす」の銘が付けられ八幡社の社宝になっています。(寛文7年/1667頃の伝説)

領主竹中家の「横笛記」に同様の話も載っているようです。

本多忠勝陣跡：十九女池^{つづらいけ}西側の手前辺りで陣を敷いた。陣跡碑は民家の裏側、見学自由。

南宮山^{なんぐうさん} : 419.23m二等。展望台は「毛利軍陣跡」。

南宮山三角点は西方40分展望なし。

展望台までハイキングコース。頂上まで3時間。JR垂井駅から、登山口の南宮大社まで徒歩30分。南宮大社Pあり。

南宮大社の祭神は天照大神の兄神、金山彦命。美濃国一宮(金属業の総本山)神武天皇東征のおり、金鷄を放って神武天皇を助けています。

美濃国府(垂井町)の南方に位置するので南宮と称されるようになった。

桃配山^{ももくぼりやま} : 標高104m。家康最初の陣跡。

「壬申の乱」のとき、大海人皇子が、野上宮から不破の地に出陣して、兵を鼓舞するため、名産の桃を全兵士に配り、快勝した故事があります。

そこから桃配山、桃賦野^{ももくぼりの}と、呼ばれるようになった。

関ヶ原合戦で徳川家康は、この故事にならい、ここに「最初の陣」を置き勝利した。

(国道21号線沿いにあります。関ヶ原駅から東約2.3km。)